

目的・目標

本プログラムは、展覧会の企画制作・国際巡回およびシンポジウム等を通して、森美術館のキュレーター、コーディネーター、アシスタントに加え、国内で活躍する中堅・若手のキュレーターを育成することを目的としている。将来的には、世界のトリエンナーレやビエンナーレなどの国際芸術祭で芸術監督やプロデューサーに就任する水準の人材に成長させることを目指す。その過程において、活動拠点である美術館の機能を強化し、国際的ブランド力を高めることで、日本現代文化の国際発信力をさらに拡充させることを狙う。

① 藤本壮介展プロジェクト

概要
建築家の藤本壮介氏の展覧会を企画・制作し、海外巡回する実務を通して、森美術館スタッフを国際的に活躍できる水準の人材に育成するプログラムである。

3年目までの取組

「藤本壮介展」を企画制作し、森美術館で開催する。それに並行して、本展の国際巡回のための交渉を進め、3年のうちにアジア1～2会場での巡回を目指す。建築展の企画制作力に加え、国際巡回における交渉力や海外における展覧会マネジメントについてのノウハウを習得する。

5年目までの取組

「藤本壮介展」の海外巡回に向けた交渉を引き続き行い、アジア巡回に加えて欧州での巡回も目指す。海外巡回で得た知見やノウハウを館内外に広く伝達するために、デジタルアーカイブの公開も行う。



「2025年大阪・関西万博」大屋根リング模型（展示風景予想図）
© Sou Fujimoto Architects

② 国際展プロジェクト

概要
森美術館外の中堅・若手キュレーターも対象とした、シンポジウムやワークショップを通じた人材育成プログラムである。

現代美術や建築・デザインをテーマに、国際展のディレクター経験者を招き、キュラトリアル・ワークショップと国際シンポジウムを開催。ディレクターに必要な知識や経験、どのような視点でディレクターが選ばれるかなどの知見を参加者が習得する。

ワークショップ参加者を中心に、日本人キュレーターを海外機関や芸術祭のスタッフとして派遣する案を検討。実地の経験を積むことで、将来的に国際展のディレクターになるために必要な知見の深化と人的ネットワークの構築を目標とする。※派遣の詳細については別途検討。

中核となるクリエイターやアドバイザー

- ・森美術館館長
- ・ベネチア・ビエンナーレ国際建築展総合ディレクター経験者（予定）
- ・デザインフェスティバル等ディレクター経験者（予定）
- ・建築・デザイン分野で国際的に活躍するキュレーター等（予定）

デジタル・アーカイブ化（対象①）

- ・30件（インタビュー、講演動画など）

国内展示・講演【計3回】（対象①②）

- ・藤本壮介展（2025年）
- ・国際シンポジウム（2025、2026年）ほか
- 海外展示【計3～4回】（対象①）
- ・アジア、欧州（2026年～）

成果目標（見込）	目標値
文化施設の展示活動に対する専門誌・専門家・批評家等による評価数（高評価）対象①	50件
デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数 対象① 対象②	30件
マネタイズの強化（企業、個人による協賛金収入、コンテンツ海外輸出による企画料収入）対象①	4.7 千万円
国際芸術祭派遣予定者決定 対象② ※ベネチア・ビエンナーレ（2027、2028年）、釜山ビエンナーレ（2026年）、タイランド・ビエンナーレ（2027年）等	10件
国際芸術祭関連のプログラムへの招聘依頼数（図録やウェブ媒体への寄稿等も含む）対象②	3件

育成対象者：約15人

森美術館
キュレーター、コーディネーター、アシスタント

中堅・若手キュレーター・建築家・研究者（5年以上の美術館または、国際展での企画・運営経験者等）

実施体制

